

「RTI モデルによる特異的発達障害

（読み書き障害）の支援」

平成 23 年 11 月 26 日（土）13:00-15:00、「RTI モデルによる特異的発達障害（読み書き障害）の支援」を開催しました。教師、保護者、学生の 117 名（うち学校心理士会会員 30 名）が参加されました。



近年、特別支援教育においては、学習や行動面のニーズに対応し、子どもの成功につながる支援のあり方が模索されてきています。学習面のニーズの一つとして、特異的発達障害（読み書き障害）があります。これは従来、知的能力と獲得した能力の乖離をもって診断されてきました。しかしながら、こうしたアプローチでは、子どもの失敗は回避できず、二次的な問題も生じます。そこで、近年では、診断を先に行うのではなく、まずは子どものもつ困難さに対して対策を講じ、その後に診断を行う RTI デル（response to intervention）が提唱されています。

本講座では、この RTI モデルに基づいた音読指導に取り組んでおられる鳥取大学の小枝先生よりご講演をいただきました。

岐阜県はもとより、兵庫、三重、神奈川、東京からも多くの先生方に参加いただき、最前線の研究成果について学びました。

